

千葉大学学術成果リポジトリ(CURATOR)は、千葉大学内で生産された電子的な知的生産物(学術論文、学位論文、プレプリント、統計・実験データなどの学術情報)を蓄積、保存し、学内外に公開するためのインターネット上の発信拠点です。

『萩庭標本データベース』の植物標本画像の 5万点余が閲覧できるようになりました

CURATORには、学術論文やプレゼン資料などだけでなく、多くの学術成果としての画像データが登録されています。

中でも萩庭さく葉標本の画像は、故萩庭丈壽名誉教授が蒐集された顕花植物標本を手軽にご覧いただけます。

この度、5万点余のすべての画像が公開されましたので、萩庭標本データベース作成協会の会長を務められた薬学部卒業生の福原正さんのコメントとあわせて、ご紹介します。

CURATORによる萩庭標本データベースの公開について

福原 正（薬学部1958年卒）

今年2月初め、故萩庭丈壽千葉大学名誉教授が収集された植物標本のラベルデータと写真を収録したデータベースのCURATORシステムへの搭載作業が完了した、とのお知らせをいただいた。5万件を超える植物標本のラベルデータと標本画像を収録する萩庭標本データベース（JHDB）は、このシステムで公開されている多くの研究成果の中では異色の存在ではなからうか。日常業務の傍らこの作業に精力を注がれた図書館関係者に改めて敬意を表したい。

5万点を超える膨大な植物標本の整理とデータベースの作成プロジェクトが発足したのは、先生が亡くなられた翌年の1997年であった。薬学部教職員、薬友会（同窓会）の支援のもと、薬学部ゐのはな山岳会（先生は顧問で、学生やOBの山行に時折同行された）OBを中心とする大勢のボランティアがこのプロジェクトにかかわった。標本への整理番号付番、ラベルデータ（植物の科名[ラテン名と和名]、植物名[ラテン名と和名]、採集地、採集日、採集者）の入力（使用ソフト：EXCEL）と校正、標本の画像データ作成（デジタルカメラによる撮影）などの段階を経て、公開可能な形になるまで約11年の歳月を要した。この間、2005年に、独立行政法人国立科学博物館（以下、科博）への標本の寄贈が決定されたのを受け、標本とJHDBに科博整理番号（TNS番号）を付与し、科博に保管されている実物標本の利用の便宜を図った。

（萩庭標本データベース作成協会：萩庭標本データベース作成プロジェクト総括報告書、2008年3月）。

CURATORで公開されるJHDBに含まれる情報は、標本ラベルのデータをできるだけ忠実に記録したオリジナルデータである。明らかな表記ミスの訂正、ラベルの外に記録されたデータの補足などはしたものの、植物名の記載がないもの、和名と学名の不適合なものなど、専門外のボランティアには判断不可能な問題点が残されている。

一方、科博に移管された標本は、研究者による同定が行われ、必要に応じて修正ラベルが追加され、標本データベースの内容（学名など）も常に更新される。最新情報を含むこの科博版データベースは、科博所蔵の標本・資料統合データベースに収録されるほか、全国の科学系博物館の情報や自然史系の標本情報が検索できるサイエンスミュージアムネット（S-Net）や地球規模生物多様性情報機構（GBIF）のポータルを通して、世界の博物館ネットワークへとつながっている。標本そのものも、科博の舞台に登場している。上野の科学博物館日本館には、ヒダカソウ、ヒメカラマツ、クモマキンポウゲ、アカショウマの4種の標本が常設展示されているのである。

15年前のプロジェクト発足後、大学に保管されていた数千件のラベルデータ書写リストの入力を十数名のゐのはな山岳会OBが始めたときは、自宅にパソコンを所有する人はごく一部に過ぎず、ワープロで入力したカンマ区切りのテキストデータをEXCELに変換する場合もあった。そんな状態で呱呱の声を上げたJHDBは、ITの急速な進歩に後押しされて、当初予想もできなかった姿へと変貌をとげた。研究、保護、育成、利用など、植物に様々な形でかかわる世界中の人たちが、データベースネットワークを通して連携を深めていくことを念じてやまない。



第二次作業のための標本の整理(1998)



新標本室でのデータ入力作業(2000)

萩庭標本データベースとは

故萩庭丈壽千葉大学名誉教授(1917-1996)が生涯をかけて蒐集・作成された、5万点余にのぼる顕花植物のさく葉標本は、質・量ともに類をみないコレクションであり、沖縄、小笠原を含む日本全土の顕花植物の約95%に及ぶといわれています。すでに絶滅した植物や絶滅危惧種の植物も含まれており、遺伝子資源の観点からもきわめて貴重なものです。

(さく葉 = 植物を平らにひろげて押し乾燥した標本。押し葉。(デジタル大辞泉より))

萩庭先生の逝去後、この標本のラベルデータは、あのはな山岳会や千葉大学薬友会(薬学部同窓会)の有志によりボランティアでデータベース化され、萩庭さく葉標本データベースとして薬学部のwebページで公開されました(現在メンテナンス中)。標本の現物は、薬学部校舎の移転を機にそのすべてが独立行政法人国立科学博物館(つくば市、以降「科博」という)



故萩庭丈壽名誉教授

に移管されています。科博は全国の科学系博物館情報「サイエンスミュージアムネット」を運営しており、このシステムは地球規模生物多様性情報機構(GBIF)を介して世界中の関連システムともつながっています。科博では萩庭標本データベースに英語表記を追加し、また最新の学名や地名が研究者により確認された場合には修正されたデータが公開されています。



クモイゴメサ
(EX 絶滅)



リュウキュウベンケイ
(EW 野生絶滅)

CURATORでは、標本ラベルのオリジナルデータ(一部、補足データあり)と、萩庭標本データベース作成協力会により撮影された画像を公開しています。そのため、ラベルに植物名が記されていない場合はCURATORでは[不明]としてありますが、科博のデータベースを見ると学名等が同定されている場合もあります。

萩庭標本データベースを見るには

● CURATOR から [植物標本画像, 学名などのデータ(オリジナル)]

標本ラベルに記載された学名などのオリジナルデータ(一部、補足データあり)と、標本の画像データを見ることができます。

登録点数が多いため全部を一覧することができませんので、植物名や学名などで検索してご覧ください。

● サイエンスミュージアムネット(自然史標本情報検索)から [学名などのデータ(更新あり)]

<http://science-net.kahaku.go.jp/>

標本ラベルに記載された学名などのデータを見ることができます。標本作成時に植物名不明とされていた場合でも、研究者により同定されればデータが更新されます。サイエンスミュージアムネットの詳細情報にあるグローバルユニーク番号のうち最後の6桁番号でCURATORを検索すると、該当する標本画像を見ることができます。

例) グローバルユニーク番号: URN:catalog:TNS:AL:159498 → 「159498」でCURATORを検索

下記の関連資料も、附属図書館で所蔵しています

『萩庭さく葉標本目録』(2冊組) / 萩庭標本データベース作成協力会, 2000. 8 【本館K棟2階参考】(貸出不可)

: 2000年の時点での標本目録が一覧できます。また、採集日誌の抜粋も収録されています。

『萩庭標本データベース作成プロジェクト総括報告書』 / 萩庭標本データベース作成協力会, 2008. 3

【本館L棟2階学内出版物コーナー】

: データベース完成に至るまでの経緯などが記されています。

CURATORでも報告書の全文をご覧いただけます。 <http://mitizane.ll.chiba-u.jp/meta-bin/mt-pdetail.cgi?cd=00052371>



CURATORは、今後もこのような学内の貴重な研究教育成果を保存・発信していきます。研究成果のご提供・登録に関しては、CURATOR担当までお気軽にご相談ください。

登録申請・ファイル送付・お問合せ: 情報部学術情報課 CURATOR担当

tel: 043-290-2253, fax: 043-290-2255, ir@office.chiba-u.jp